

かかわり学習開発部会 実践報告



「交流を創り出そう（園児との交流）」PART I

—お互いのことをよく知って、仲良くなろう—

小学校 石原 直久

1 はじめに

本学園は同じ敷地内に幼稚園、小学校、中学校の三校あり、幼小中合同の運動会などを行い、異校種の子もどうしのかかわりを深める取り組みを行っている。

その中で小学校4年生（7学級、8学級）と幼稚園年長児（ゆり組、きく組）との交流が以前より行われており、そのかかわりは年長児が小学校に入学しても5年生と1年生のペアとして続いていく。例年子どもたちは、「4年生になったら、幼稚園さんと交流できる。」と、この交流を楽しみにしている。年長児も「ねえ、いつ小学校のお姉ちゃん、お兄ちゃんたちは来るの。」と心待ちにしている。この交流で、4年生の子どもたちは年下の子に対する思いやりや慈しみの心情をもち、また園児は年上のお姉ちゃん、お兄ちゃんに対するあこがれや尊敬の感情を抱くようになる。

4年生は小学校生活にも慣れ高学年の一員となり、今後学校のリーダーとなっていく。この交流を通して4年生の子どもたちに、年下の気持ちを感じ取り、相手を思いやりながら自分の行動を見直すことの大切さを考えさせていきたい。そして園児のことを考えて、様々な努力や工夫を行いながら活動することで、今までの4年生の努力や苦勞をとらえさせ先輩方に感謝するとともに、自分たちの成長を感じ取ることができるようになることを期待したい。

4年生の子どもたちは、自分たちで幼小交流の活動を創り出していこうとした時、校種が違うことにより、様々な困難を経験することになる。日程や時間割の調整、準備物の連絡などが難しく、連携を密に行わないと交流がスムーズに進まない。そのため様々な仕事を一人ひとりが責任をもって分担し、協力して行動することの大切さを考えさせていくことができる。

本単元は、道徳と特別活動の総合単元として計画した。道徳で、4年生として年下の子とどのようにかかわるのか考えたり、自分たちで活動を創っていくときに大切なことを話し合ったりすることを通して、自分たちで、よりより幼小交流の活動を創り出していけるようになると思う。また、自分たちの行動を振り返りながら、交流で学んだことを今後の活動に生かさせていく。



2 子どもたちの実態

子どもたちは、自分たちが幼稚園年長の時、当時の小学校4年生（現在中学校2年生）と交流を行った経験がある。そのときのことについて聞くと、「一緒に遊んで、とても楽

しかった。」「あの時に4年生のお兄ちゃんからもらった紙飛行機を今でも大切に持っているよ。」と、楽しい思い出として心に残っている。

4年生になってすぐに、子どもたちは「先生、わたしたちは幼稚園さんと交流できるんでしょう。」「幼稚園さんと早くペアになって、交流したい。」など、学級全員が「幼稚園さんと交流をしたい」という思いを述べ、子どもたちが園児との交流をととても楽しみにしていたことがわかった。しかし、子どもたちの多くは、「幼稚園さんと遊びたい。」「今までの4年生と同じように、楽しいことをしてみたい。」という意識で、「1年生から6年生の中で、なぜ4年生が園児と交流するのか」「なぜ幼稚園の年少や年中ではなくて年長との交流なのか」など、何のために交流するのか目的をはっきりと持つことができていなかった。

3 単元の目標

- 園児さんと楽しい交流ができるように、学級・学年として自ら計画を立てて活動を行うとともに、反省点を以後の活動に生かしていくことができるようにする。
- 自分たちが園児だった時のことを思い出しながら、園児の気持ちや状況を思いやり、園児も自分も共に楽しい時間が過ごせるように、年上の者として4年生が行うべきことを考えることができるようにする。

4 単元計画

第1次 交流のねらいを考えよう・・・・・・・・・・10時間

- わたしたちの学園のよさとは（道徳・4-（4）愛校心）
- 小さい子とのかかわり方を考える（道徳・2-（2）思いやり・親切）
- 交流のねらいを考える（特別活動）
- 担当係、役割分担を決定する（特別活動）
- 同学年他学級、幼稚園と連携する（特別活動）

第2次 活動の見通しを持とう・・・・・・・・・・6時間

- 活動内容を考える（特別活動）
- 同学年他学級、幼稚園と連携する（特別活動）
- 一人ひとりの役割と責任を考える（道徳・1-（3）勤勉・努力）
- 自己紹介カードを作る（特別活動）
- 役割分担と事前準備を行う（特別活動）

第3次 第1回交流会を行おう・・・・・・・・・・6時間

- 当日準備を行う
- 同学年他学級、幼稚園と連携する
- 第1回交流会を行う
- 後かたづけを行う

第4次 交流会を振り返ろう・・・・・・・・・・3時間

- 交流会を振り返る（道徳・2-（2）思いやり・親切、2-（3）信頼・友情）
- 良かった点、改善点をふまえ、次の活動を考える
- 次の活動の担当係、役割の分担を行う（特別活動）

5 活動の概要（ここからは、特別活動の時間に行った内容を述べていく。）

（1）第1次 交流のねらいを考えよう（6時間）

① なぜ交流するのか？なぜ4年生なのか？

子どもたちは「去年の4年生もやっていたから。」「毎年やっているから。」といった考えで園児と交流を行いたいと考えており、何のために交流を行うのか、ねらいをはっきりと考えられていなかった。「なぜ園児と交流するのか」、「なぜ4年生でなければいけないのか」考えさせることで、ねらいを明確にし、自分たちの自主的な活動として交流できるように意識づけるようにした。

話し合いを通して、子どもたちからは、

- ・「幼稚園年長さんは、来年度小学校へ入学してくる。だから、すぐに小学校に慣れて、安心して来られるように、わたしたちにできることをする。」
- ・「今から私たちが幼稚園さんと仲良くなっておいて、来年度小学校へ入学してきた時、心細くなったり、不安になったりしないようにするために交流する。」
- ・「来年度ぼくたちは5年生となり高学年になる。高学年としてどのように低学年と接していかなければならないか学ぶために交流する。」
- ・「6年生は来年度卒業してしまう。5年生は今まで1年生のペアと一緒に活動している。そうすると4年生が幼稚園さんと交流するのに一番適している学年だ。」

などの意見が出された。子どもたちは、どのようなねらいをもって園児との交流を行うのか、なぜ4年生が交流をするのか、自分たちなりの考えをもつことができるようになってきた。子どもたちは、交流のねらいを次のように設定した。

（交流のねらい）

- 幼稚園さんと仲良くなって、幼稚園さんから信頼され、来年度幼稚園さんが安心して入学できるようにする。
- 幼稚園さんと交流することで、低学年の人たちとのかかわり方を学ぶ。
- きまりを守って行動し、幼稚園さんにもきまりを守ることの大切さを考えさせる。

しかし、子どもたちは、自分たちですべてを計画し実行してきた経験が少ないために、「自分たちで交流を進める」という思いには至っていなかった。

② どのように交流を進めていくのか

子どもたちが自分たちで活動を創り出していくことができるようにするために、活動の大まかな見通しをとらえさせるようにした。子どもたちは8学級と相談したり、先生方と日程調整をしなければならないこと、園児のことを考えて活動内容を工夫しなければならないこと、いろいろな役割を分担しなければならないことなどを理解するようになってきた。そこで、全体のリーダーや8学級との連携係、幼稚園との連携係などを決め、協力して活動していくことにした。

（2）第2次 活動の見通しをもとう（5時間）

① どのような活動をするのか

交流で行いたい活動内容を話し合った時、いろいろな案が出されたが、次の二つの案に集約されていった。

- ・幼稚園さんが夏休みに行くお泊まり会と一緒に参加してお手伝いする。
- ・お弁当を一緒に作って、学園の近くに遠足に行く。

子どもたちは、お泊まり会に参加して手伝いたいという考えが一番多かったが、家庭の事情で参加できない子がいるため、その子のことも考えて遠足も計画した。しかし「8学級も同じ活動を考えているのか。」「このような内容で本当に幼稚園さんは喜んでくれるのか。」と様々な意見が出され、何回も話し合いを行ったがなかなか結論は出なかった。二つの案とも『自分たちがやってみよう』ことで、8学級や園児の思いを考えながら出されたものではなかった。そのため「8学級や幼稚園さんはどう考えているのか。」という質問が出されるとどうしていいかわからず話し合いが行き詰まってしまった。ただ、子どもたちは徐々に自分たちだけの思いだけではなく、8学級や園児の思いも聞いたり考えたりしなければ共に楽しめる交流にならないことに気づき始めていた。

実際の活動がないまま話し合いが多くなり、子どもたちの意欲がだんだん低くなってきていたので「今まで決定している二つの活動案については今後も検討することとして、それよりも前にまずやることのあるのではないか。」と提案した。子どもたちは「幼稚園さん、これからよろしく」の会を行いペアどうしの顔合わせをすることにした。園児に信頼してもらい安心して活動してもらうためには自分のことをよく知ってもらおうと、手作りの自己紹介カードを作り、園児に手渡すことを考えた。また、活動内容がはっきりしたことで、各系のリーダーを中心に休み時間や放課後に自分たちで8学級や幼稚園に連携に行ったり、事前準備を行ったりして当日に備えた。

② 8学級や幼稚園の先生との連携

8学級との連携が「自分の学級で話し合ったこと」の連絡だけになっており、7学級と8学級では活動内容が全然違うものになっていた。また、幼稚園の先生に計画の内容を連携に行った時「ちょっと、それは難しいかもね。」と言われたら係が「この活動はできません。」と自分たちで判断し全体に報告することもあった。

夏休み前、8学級との連携係から「8学級さんと話し合った結果、幼稚園さんとの遠足はなくなりました。」と報告があった。ある子が「遠足を計画したのはお泊まり会のお手伝いに参加できない人が一人いるからだったじゃないですか。遠足がなくなったら、その人はどうするんですか。」という意見が出された。学級全体からも「係の人は、わたしたちの思いをしっかり8学級さんに伝えてほしい。」「係だけで決めるのではなく、大事なことは学級全体に相談してほしい。」という意見も出され、それ以来8学級との連携係はより綿密に連携を行うようになった。

(3) 第3次 第1回交流を行おう(6時間)

- ① 日 時：平成16年6月24日(木) 第1校時～2校時
- ② 場 所：幼稚園お遊戯室、ゆり組、きく組教室及び園庭
- ③ 対 象：小学校第4学年7学級、8学級(計77名)
幼稚園年長ゆり組、きく組(計69名)
- ④ ね ら い：○ 園児とお互いに知り合い仲良くなることで、園児に安心感をもたせ、信頼されるようにする。

⑤ 当日の活動内容：自己紹介，名刺やワッペン渡し，ドッジボール，自由遊びなど

当日の交流は，それぞれの学級の思いを大切にしようということで7学級，8学級別々の活動となった。自分のペアの園児に，7学級は自作の自己紹介カードを渡し，8学級は自作のおそろいのワッペンを渡した。交流会まで時間をかけて話し合いや準備を行っていたので，開会式から閉会式まで担当係を中心に4年生の子どもたちだけで司会進行，準備などすべてをスムーズに行うことができた。

開会式では園児も4年生も最初少し緊張気味だったが，4年生がペアの園児を大きな声で呼び園児のそばへ行くと，園児はすっと4年生と手をつないできた。4年生はびっくりしながらもうれしそうな笑顔で園児にやさしく話し始めた。手をつないだことでお互いの気持ちが伝わったようであった。

園児はもらった自己紹介カードを大事そうにポケットやロッカーにしまっていた。その様子を見て，交流会前は「あまり上手にできなかつたけど，こんなカードでも幼稚園さんは喜んでくれるかなあ。」と不安に思っていた子どもたちは「一生懸命に作ったら自分の思いはちゃんと伝わるんだ。」と喜んでた。

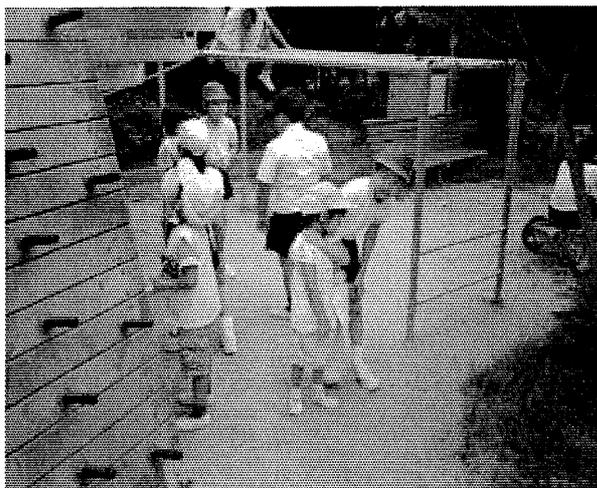
子どもたちは，園児とドッジボールをするうえで園児に楽しんでもらえるように事前に何度も話し合いを行い様々な準備をした。けがをしないようにボールの種類を考えたり園児の運動能力を考えてコート of 広さを考えたりルールを考えたりしたが，実際の交流では園児はあまり楽しんでいなかった。数人の子どもたちが園児の表情から「幼稚園さんは楽しんでいない。」と気づき，ゲーム係や全体のリーダーにそのことを伝えた。ゲーム係は「どんなことしたい？」と園児に聞いたり各リーダーと相談したりしながら計画を変更して自由遊びを行った。その後の活動で子どもたちは常に園児の表情を意識し，園児の思いを感じ取ろうとしていた。この経験から子どもたちは事前に園児の思いを聞き何度も意見のやりとりを行うことで，共に楽しめる活動を創り出していけることを理解することができた。

⑥ 児童の反応

交流を終えた後の4年生の思いは次のようなものであった。

- 幼稚園さんが，ぎゅっとわたしの手を握りしめてくれた。わたしもぎゅっと握りかえした。なんだか気持ちがつながった気がしてうれしかった。
- ペアの幼稚園さんと初めて会った時は「どうしたらいいのかなあ。」と不安になったけど，一緒に座っていろいろ話しをしていたらだんだん慣れてきてお互いに笑顔になってきた。一生懸命に話を聞いてくれてうれしかった。
- 幼稚園さんが自分たちが作った自己紹介カードを「ありがとう。きれいだね。大事にするね。」と喜んでくれてとてもうれしかった。そしてカードを大事に自分のロッカーにしまっているのを見て，とてもとてもうれしかった。
- ぼくのペアの子は冗談でぼくをたたいて笑っていた。ぼくは最初，おこったらぼくのことを嫌いになると思って許していたけど，だんだん本気でたたいてくるようになってとても困りました。ぼくは真剣な顔で「いたいから，やめて。」と言ったらやめてくれました。いけないことをしたらちゃんと注意しなければならないとわかりました。注意しても笑顔で一緒に遊んでくれました。
- 自分たちの考えだけでなく，幼稚園さんたちの意見もしっかり聞いて活動を考えた方

が、みんな楽しく活動できると思う。



(4) 第4次 交流会を振り返ろう(2時間)

第1回目の交流についての振り返りを行う話し合いで、子どもたちからは「楽しみにしていた幼稚園さんとの交流ができてとても楽しかった。」「幼稚園さんはかわいかった。またやりたい。」「自己紹介カードを喜んでくれてうれしかった。」などの感想が多数出された。子どもたちは、楽しみにしていた園児との交流ができてとても満足していた。そして、園児が自分たちと活動することをとても楽しみにしていたことを知って「この次も幼稚園さんを楽しませるぞ。」と次の活動へ意欲を持つようになった。

また、8学級や幼稚園と何度も連携して交流がうまくいくように様々な準備をした系の子どもたちは「幼稚園さんやみんなが楽しんでくれてほっとした。」「うまうまいかなかったところもあったので、この次は今回よりももっと楽しい交流になるようにがんばりたい。」と自分たちの役割を果たした達成感と次への展望を持っていた。

しかし、子どもたちからは次のような反省も出された。

- ・「今回は初めての交流だったから7学級と8学級で別々の活動になってしかたなかったけど、やっぱり同じ学年なんだから、この次は一緒に活動したい。」
- ・「幼稚園さんが楽しんでくれると思っていろいろなゲームを考えただけど、幼稚園さんが一番楽しんでいたのは自由遊びだった。」
- ・「あんなにみんな話合っって幼稚園さんがけがをせず楽しんでくれるように準備したのに、ドッジボールは全然ゲームになっていなかった。」

子どもたちは、交流会当日、幼稚園の園庭で同学年の7学級と8学級が別々の活動をしていることに違和感を抱いていた。学級だけではなく同学年としてお互いの意見を認め合い譲り合いながら一つの活動を創りあげていく「学年意識」の大切さを感じることができるようになってきた。また、「ゆり組さんときく組さんは別々の活動で心細かったんじゃないかなあ。一緒にやりたかったんじゃないかなあ。」と園児の気持ちを思いやることができるようになってきた。

活動内容についても「ぼくたちが幼稚園の頃、かけっこやドッジボールが好きだったから幼稚園さんも好きだと思っていたけど、やっぱり勝手に考えたらいけないね。」「事前に幼稚園さんの考えも聞くことが大切だね。」と、園児の考えをしっかりと把握すること

の大切さを感じていた。このような反省をふまえ、子どもたちは次回の交流では次のことを考えて計画したり準備をしたりすることを決めた。

(次の交流に向けて)

- 4年生と年長さんの交流だから、ゆり、きく、7学級、8学級みんな仲良くなった方がいい。今度は合同で活動する。そのために計画を立てる時から、連携を何回も行う。
- 事前に幼稚園さんの思いをしっかりと聞いたり、話し合ったりして計画をたてていく。

7 成果と課題

- 子どもたちは、自分たちで交流を創り出すことの意義を理解し、役割を分担しながら各系のリーダーを中心に自分たちがやるべきことを考え、日程調整や当日の打ち合わせ・準備などを行うことができた。特に日程調整については、見通しをもって8学級や幼稚園と連携をとることができた。
- ドッジボールの時、園児の表情から園児の思いを感じ取り、係を中心に園児の思いを大切に計画を変更することができた。子どもたちは、共に楽しめる活動を創り出すためには、自分たちの思いと園児の思いを交流し合うことの大切さを感じ取れるようになってきた。
- 全体としては、子どもたちは交流を楽しみにするあまり自分たちがやりたいことが優先し、同学年の8学級と連携を密にして活動を計画していくことができなかった。また、園児の思いを自分たちだけで想像し実際に園児に思いを聞いたりすることができていなかった。
- 子どもたちは、交流を特定の日だけに「お楽しみイベント」というとらえをしている。交流というのは、特定の日だけ行うことなのか話し合うことを通して、普段から一緒に遊んだり、手紙を渡したりするなど、相手の思いを受け止めたり自分の思いを伝えたりする活動の積み重ねが、自分たちが設定したねらいを達成するためには大切であることに気づかせ、活動を創り出すことができるように支援をする。



「ワクワク！ドキドキ！サマーキャンプ！！」（5年）

小学校 下野 素文

1. はじめに

現代の子どもたちは、物質的な豊かさ、便利さによるライフスタイルの変化、また、少子化や高度情報化によって、人とかかわりあって育っていくという、子どもにとって本来欠かせない場面が少なくなっているという実態がある。学校においても、以前と比べて、対人関係や集団にかかわる体験の減少から、体験自体を自ら求めようとする意欲や、かかわる技術内容が低下していることから、学級・学年という集団のなかで、生活をしていくうえで人間関係にかかわるさまざまな問題が表出せざるをえない。したがってかつての子どもたちが、家庭や地域社会のなかで自然に身につけてきたこうした意欲や技術内容を、学校で系統的に身につけさせることが必要になってきた。

今回計画しているキャンプでは、一つには、生活の豊かさに慣れてしまっている子どもたちに、山の生活の中で不便さを感じさせることによって、日頃の自分たちの生活を振り返るきっかけにしていきたいと願った。グループで協力し、しっかりと友達とのかかわりをもたせていくこと、さらにこのキャンプを通して友達の思いや願いを受け止めながら主体的に活動を企画し、運営することによって、自主性を育て、力を合わせてやりきったときの達成した喜びを味わわせていくことをねらいとした。また、今回のかかわり学習では、「道徳」と「特別活動」の両者を総合単元的に扱うことで、より効果的に人間関係力を育むことができると考え実践した。

2. 子どもたちの実態

本学園の子どもたちの特徴として、幼稚園からのつながりで、男女を問わず仲が良く、異年齢の子どもに対しても思いやりや責任感をもって温かく接することができる反面、十二年間の構成員がほとんど変化のないことにより、お互いの見方が固定的になり、友人に対する新たな認識を持ちにくいという面も見られる。この傾向は、現在の5年生にも見られるものである。キャンプについては、約3割の子どもたちが家族やスポーツクラブなどで経験しているが、今回のように自分たちだけで何もかもしなければならないキャンプは、全員初めてであった。そのため、「飯盒炊さんをやりたい」「テントをたててでみんな寝てみたい」などの期待感のほかに、「自分たちの力だけで本当にできるのか」「3日間、友達と仲良くやっていけるのか」などの不安を抱いている子どももいた。

3. 単元の目標

- 野外の活動を通して、協力の大切さを学ぶと共に、協力する力を養うことができるようにする。
- 自分の思いや願いを出しながら、仲間の思いや願いを受け止め、活動計画を立て、運営することができるようにする。
- 自分たちのおかれている状況を判断し、自分たちで考えた最前の方法を用いて解決することができるようにする。

4. 活動計画（全24時間）

子どもの意識	「自然の中でのキャンプをしたいな」 「キャンプでどんなことをするんだろ？」 「みんなで協力して楽しいキャンプにしたいな」	「この事前合宿で、キャンプすることを体験することが必要だね」 「真のみんなを協力できるようにがんばりたいな」 「僕のリーダーとしてみんなを引っ張りたいな」 「できるだけ自分たちの力でやりきりたいな」	「事前合宿の経験を活かしているたい」 「もう一度まで話し合っていないな」 「しっかり考えて準備をしないとう」 「みんなで協力して楽しいキャンプにしよう」	「キャンプではどんな力があったかな」 「活動の経験や思い出を想いたいな」 「キャンプで学んだことをこれからの活動に生かしたいな」
具体的な活動	第1次 「キャンプのねらいを決めよう」 （4時間） ●4年生のときの合宿をふりかえろう ●実行委員会を組織しよう ●ねらいを決めよう ○「或おこし」【1～12】 不とう不崩】	第2次 「事前合宿を成功させよう」 （12時間） <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 班編成と係 ●生活班をつくらう ●係を決めよう ●班の日割と役割分担を決めよう（4） </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> ●係にわかれて合宿の準備 - テント係 - 体育委員会 - 財物し実行委員 - しおりづくり - 食事係 - 実行委員会（8） </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 事前合宿 ●活動計画にしたがった係の準備や仕事 ●使った所や物のあとかたづけ 【2+数分】 </div> </div>	第3次 「キャンプに向けて最終準備をしよう」 （4時間） ●各班・係ごとの準備をしよう ●スタンプを考えよう ○心のレレーブ 【2～3】信紙・文情】	特別活動（学級活動）○道徳 第4次 「キャンプでの活動をふりかえろう」 （4時間） ●キャンプのふりかえり ●班や係での反省 ●自己課題の反省 ●マイキャンプメモリーをつくらう ●思い出のマイアルバムづくり
まわりのこと考え めざす姿と支援 通切に物断し 行動化する	4年生の合宿を思い出し、お互いの考えを出し合いながらキャンプに対する意欲を高めることができる。 ○5年生全員の見学を機約しながらどんなキャンプにしたいのか考えさせる。	自分の班の仕事や係の仕事をみんな協力して進めていくことを通して、自分の役割を認識することができる。 ○一人ひとりが自分の仕事に責任を持ち、自覚をもってやりきることの大切さに気付かせる。 ○班のみんなと常に話し合いをしながら活動を進めさせていく。	お互いの思いを交流しながら、活動内容を整理していくことができる。 ○意見交換してお互いの良さを認めあわせる。 ○各グループの活動内容を交換させていく。	キャンプに向けて自分たちががんばってきたことやキャンプでの思い出をお互いに認めることができる。 ○班や係ごとにお互いのがんばりを評価させる。 人に頼らず自分力で最後までやりきる。 新しいことにチャレンジしよう。

5. 活動の概要

(1) キャンプのねらいを決めよう

●4年生の合宿をふりかえる（第1次 1・2時）

4年生の終わりに子どもたちは初めて、景雲ハウス（教育実習生のための宿泊施設）で合宿を経験した。自分たちでスケジュールをつくり仲間と一晚を過ごすことができた。その時の思いを話し合わせることから始めた。そして、どんなところが良かったのか、どんなことが困ったのか、確認をしていった。

子どもたちからは、困った点について次のような意見が出された。

自分たちが立てたスケジュールの通りにすすまなかった。
 班での協力ができなかつたし、わがままを言う人がいた。
 夜さわがしくして寝られず、迷惑をかける人がいた。
 朝早く起きた時の過ごし方がよくなかつた。
 自由時間の長さが短かつた。 などなど

これらのことをキャンプの中では、しっかりと話し合いをして反省として生かしていこうということになった。

今回5年生が計画している屋外での2泊3日のキャンプについて、イメージマップをつくっていった。そして、自分たちがこれからつけていきたい力としてまとめていった。

①みんなで協力する力 ②最後までやりきる力 ③チャレンジする力
 ④友達のことを分かり合える力 ⑤人にたよらず自分たちで解決する力

5つの力にまとめることによってキャンプでの目標が明確になり、これらの力の習得に向

けて意欲的になったと考える。

その後みんなで8月のキャンプのキャッチフレーズを考えていった。その結果

「ワクワク！ドキドキ！サマーキャンプ」とすることが決まった。

●実行委員会を組織し・ねらいを決める（第1次 3・4時）

初めてのキャンプを経験する児童が多い中で、どんなキャンプにしていくのか、みんなの願いをくみ取って、楽しく有意義なものしていくために実行委員会を組織することになった。4年生での合宿の経験から各クラス4名ずつ8名で組織した。多くの児童が立候補する中で、話し合いにより決定した。そして、実行委員が中心となってキャンプの目標を各クラスで話し合っ

（2）事前合宿を成功させよう

●班編成と係決め（第2次 1～4時）

子どもたちが一番気にかかっている生活班の編成について話し合いをした。目標や内容をふまえてどんな班づくりをしていったらよいのか考えさせていった。子どもたちからは、クラス替えもあったことから、4年生のときにいっしょではなかった人と班を作ったらいいのではないかという意見にまとまった。そして、班ごとの事前合宿の目標も考えさせ、役割分担をし、それぞれの仕事の内容を確認させた。

●合宿の準備（第2次 5～10時）

キャンプに向けての事前合宿で、どんなことを練習しておく必要があるのかを考えて、各グループから係りの責任者を決めていった。子どもたちが是非必要と考えた係は、
＜テント設営係 食事係 レクリエーション係 しおり作り係＞であった。それぞれの班から1人ずつ人選し、専門的に係をこなしていくこととした。その後係ごとに集まって準備を進めていった。

＜サマーキャンプに向けてのそれぞれの係の思い＞

テント設営係

テントをたてることをしたことがないのでやってみたくて思いました。合宿中にしっかりと練習して、短い時間でたえられるようにしていきたいです。また、みんながそこで寝るので、倒れないようにしっかりとペグを打ってじょうぶにしていきたいです。

食事係

グループのみんなの意見を聞きながら、栄養のバランスを考えたメニューにしていきたいです。今回の合宿では、買い出しもするので、予算内に収まるように考えて買い物をして、おいしくて班のみんなに喜んでもらえる食事を作りたいです。

レクリエーション係

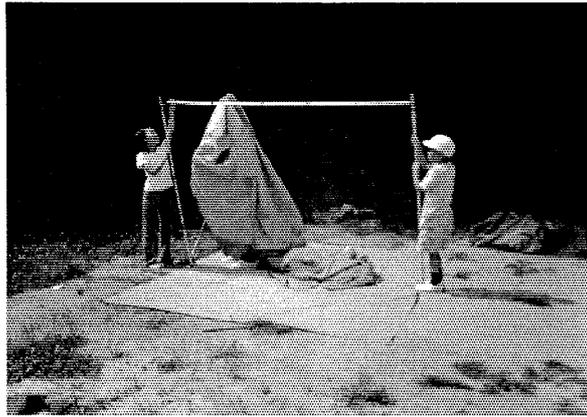
学校でしているようなレクではなくて、自然の中で楽しくできて、みんなに喜ばれるものを考えていきたいです。キャンプ場の広場は、広がっているいろいろな道具があるのでそれを使って今までにしたことのないことをしていきたいです。

しおり作り係

事前合宿のしおりがよくできていたので、本番のしおりもそれに負けられないようにつくりたいです。みんなにわかりやすく読みやすいようにいき、カットや図も入れていきたいと思

●事前合宿（第2次 11・12時 課外）

いよいよ事前合宿がはじまった。子どもたちは、たいへん楽しみにしている反面、それぞれが班の責任を果たさなければならないという思いからか少し緊張しているように見えた。実行委員の司会でいよいよスタート。テント立て班と買い出し班に分かれて活動が始まった。しかし、テント班で実際にやってみると、思ったようにテントが立てられないことがわかった。それは、



テントの部品がそろっていなかったことや立てる人数が不足していることが明らかになったからである。自分たちがキャンプで使ったあとは、来年のために用具の点検をしておく必要があることも確認できた。食事班のほうも自分たちの班が立てたメニューの材料をそろえるために買い出しにいったが、予想していた金額より値段が高くて予算を超えてしまうことになり、材料をけずったり、買う量を減らしたりと、苦勞する班もあった。しかし、どの班も献立の通り食事をつくりあげることができた。一番大変だったのが飯盒を担当したグループだった。今回は火興しからの挑戦ではなかったが、実際に飯盒がかけられるくらいまでの火にすることがなかなかできず、仕方なく隣の班から火をもらったりする班もあった。



夕食後は、体育委員会が中心になって、キャンプのときに踊るフォークダンスの練習をおこなった。体育館での練習となったが、全員でコロブチカの曲を覚えながら踊ることができた。いよいよ校舎を使っただけの肝試し。実行委員が中心になっていろいろなアイデアを出し合っただけの計画していた。仮装や音響などを効果的に使って、予想以上に評判のよいものとなり、楽しく活動することができた。

事前合宿を通して、キャンプに向けての改善事項が明らかになったことで、子どもたちの不安な面も少し解消されたように思った。しかし、一人ひとりが立てたねらいには十分に迫ることができていないこともわかり、キャンプまでに精神的な高まりをどう作っていくかが課題となった。

（3）キャンプに向けて最終準備をしよう

●各班・係ごとの準備（第3次 1～4時）

事前合宿での反省を受けて、このキャンプで一人ひとりがどのような力をつけ、責任を果たしていくのか話し合った。そして、各班ごとに計画の見直しをおこなった。食事のメニューや分担、テントを立てるときの役割や活動内容について考え、各係も役割分担や内容についての確認作業を行い、準備を整えていった。今回のキャンプのまとめとして、一

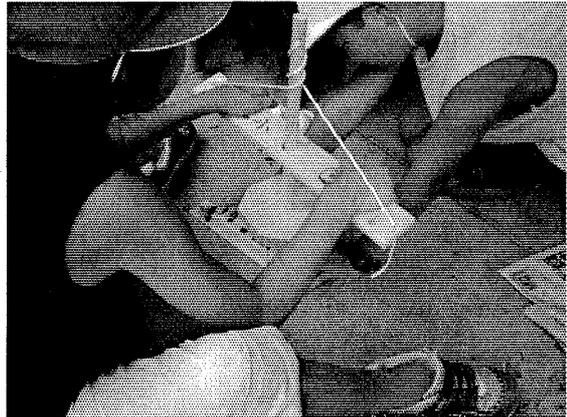
人ひとりが写真と作文で構成した「マイキャンプメモリー」を作ることにし、そのために班に一台ずつインスタントカメラを用意した。

☆ワクワク！ドキドキ！サマーキャンプ☆

夏休み前に準備も整い、あとは当日を待つだけになった。しかし台風の影響で前日より雲行きが怪しくなり、天候を気にしながらのキャンプとなった。

1日目

参加者全員がそろいよいよ出発、ワクワクしながら目的地へ。実行委員が中心になって開村式を終え、活動開始。しかし、前日までの雨の影響で仕方なく予定を変更し、テント張りは夕方からに。午前中は、トーチ棒づくりとレク活動をするようになった。レク活動では、グランドゴルフとペタンクに挑戦。両方とも初めてする子どもが多く、説明を聞きながら楽しくすることができた。昼食後は、火興しと夕食づくり。簡単そうに見えた火興

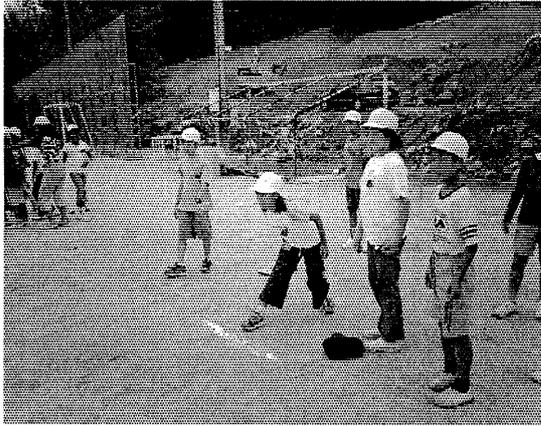


しも実際やってみるとなかなか難しい。板を押さえたり声をかけたりと班全体大騒ぎになった。しかし、どの班も真剣に取り組み、煙が出たり火種がでたりするたびにあちらこちらで歓声が上がった。どの班も一人ひとり試みたが、1時間のなかで実際に火をおこすことができたのは、一つの班だけであり、難しさを感じると共に、火の大切さを知ることができた。夕食づくりでは、自分たちが考えた献立で調理をおこなった。どの班も事前合宿での経験を生かして、役割分担をしたり進行の状況を確認したりしながら、前回よりも手際よく作ることができた。みんなの協力のもとで達成できたことで自信が持てると同時に、仲間とのつながりも強くなっていった。そのあと、テント立て。設営係のリーダーを中心に班で力を合わせながら取り組んでいった。前回の経験を生かしながら立てていったが、メンバーの息が合わず苦戦している班もあった。日が暮れる前までに何とか終えたが、予想以上に時間がかかった。あわせて夕食の片付けが遅れていた班もあって、ナイトウォーキングは、中止になった。なぜできなかったのか班ごとに反省する時間をとっていった。

2日目

夜中に雨が降り出し、夜明けを待ってテントから体育館へ移動することとなった。朝食づくりでは、前日の反省を生かし手早く準備をし片づけることができた。午前と午後の活動後、最後の飯盒炊さんとなった。どの班もお互い声をかけ合い、気合いを入れて時間内につくり片付けをおえることができた。何とか天候も回復しいよいよキャンプファイヤ





一。ファイヤーリーダーを中心に、順調に進んでいった。楽しかったスタンプは、どの班も練習の成果があらわれ、3分以内という時間を守ってすることができた。初めてのキャンプファイヤーにどの子も感動していた。悪天候のため、朝のうちにすでにテントは片づけていたので、その夜は体育館に全員で寝ることになった。

予想外のことはあったが、これもめったに経験することのできないよい思い出になった。

3日目

いよいよ最終日。「自分たちが使った所をきれいにして帰ろう。」ということで班ごとのリーダーを中心に片づけていった。その後閉村式をして、キャンプを終了した。「もう少し居たい。」「もう一度みんなでキャンプをしたいなあ。」子どもたちのつぶやきの中に、満足感と達成感が感じられた。

(4) キャンプの活動をふりかえろう

●キャンプのふりかえり (第4次 1時)

このキャンプで、どんなことを学び、どんな力がついたのか、また、自分の班で立てた目標についてどうだったのかを振り返っていった。がんばったこととしては、「常にねらいを意識しながら活動していたこと」や「友達と協力したこと」をあげていたが、「自分たちの考えの甘さ」や「仕事に責任をもつ」や「時間の使い方」など、これからの学校生活につながる課題も見えてきた。

●マイキャンプメモリーをつくろう (第4次 2～4時)

今回のキャンプでは自分たちのキャンプの友達とかかわった思い出を形にして残す取り組みもおこなった。前述のように各班に1台ずつインスタントカメラをもたせ、「マイキャンプメモリー」としてアルバムづくりをすることにした。

アルバムの内容としては、写真に対するコメントと共に友だちとの会話やどんなことをしているのか、そのときどんなことを思っていたかなどを書くようにしていった。



できあがった「マイキャンプメモリー」は、友だちと交換しながら読んでいった。

6. おわりに

人間関係力の育成を目指して、このキャンプを進めてきた。「めざす子ども像」の観点で振り返ってみると

○ まわりのことを考える力

班づくりや係を決める場面では、自分の考えを通そうとして話し合いが進まないこともあった。しかし、十分に時間をとって相手との思いを交流する中で、お互いが意見を出し合い、相手の考えを尊重しながら自分の思いを調和させることができるようになった。

○ 適切に判断する力

屋外での未経験の活動が多かったために、自分たちの想像していた以上に難しいこともあり、一人ひとりがどのようにすれば効率的に作業を進めることができるのか判断できない場面も見られた。しかし、経験を重ねることで、お互いが声かけをし最善の方法を考えて実行する場面も見られるようになり、男女間での話し合いも活発になった。

○ 行動化する力

キャンプに対するイメージをふくらませて、事前の合宿から活動計画を立てて、見通しをもって臨むことができた。しかし、今回のキャンプでは、天候不順ということもあって設定していた時刻が変わったために、実際には予定通りに進めることが難しかった。自分たちがやりたいと計画していたことについては、時刻を見て時間内に終えることができていた。また、次にすべきことを意識して行動できる子どもがふえた。

このキャンプでは日頃経験できないような場面に遭遇し、みんなの力で工夫しながらやりきることができた。これから6年生とバトンタッチをして、学校の代表として引っぱっていくうえで今回のかかわり学習が大きな力となることを期待している。

かわり学習小学校第4学年活動計画（全25時間）

単元「自分たちの交流を創り出そう（幼稚園年長さんとの交流）PART1 ー幼稚園さんと仲良くなろうー」

<p>子どもの意識</p>	<p>「去年の4年生さんがやっていたように幼稚園さんと交流したいな。」 「自分たちが幼稚園の時の交流は楽しかったなあ。」 「幼稚園さんと交流する時はどんなことに気をつけなければならないかなあ。」 「ただ遊ぶだけじゃなくて、めあてをしっかりと考えよう。」 「自伸会信条をもとにめあてを考えたいぞ。」</p>	<p>「幼稚園さんは何をしたいのかな。」 「どういうふうな計画を立てていけばいいのだろう。」 「8学級や、幼稚園に連絡したり、相談したり、やることがたくさんあるぞ。」 「係を中心に、みんなで仕事を分担してやってみよう。」</p>	<p>「わたしたちが作ったカード喜んでくれるかな。」 「ベアの幼稚園さんのことを考えるときどきするな。」 「準備はちゃんとできたけど、これだけでいいかなあ。」 「ドッジボールより、鬼ごっこやかくれんぼがしたかったんだ。」</p>	<p>「幼稚園さんはカードをととても喜んでくれた。」 「幼稚園さんはずっと手をつないだいた。かわいかったなあ。」 「ドッジボールは計画通りにいかなかったなあ。」 「幼稚園さんが何をしたいのかははっきり聞いておけば良かったなあ。」 「また、早く交流したいなあ。」</p>
<p>具体的な活動</p>	<p>単元「自分たちの交流を創り出そう（幼稚園年長さんとの交流）PART1 ー幼稚園さんと仲良くなろうー」 ○：道徳，●：特別活動</p>			
	<p>第1次交流のねらいを考えよう(10時間) ○わたしたちの学園のよさは [4-(4)愛校心] ○小さい子とのかかわり方を考える [2-(2)思いやり・親切] ●交流のねらいを考える ●担当係、役割分担を決定する ●同学年他学級、幼稚園と連携する</p>	<p>第2次活動の見通しをもとう(6時間) ●活動内容を考える ●同学年他学級、幼稚園と連携する ○一人ひとりの役割と責任を考える [1-(3)勤勉・努力] ●自己紹介カードを作る ●役割分担と事前準備を行う</p>	<p>第3次第1回交流会を行おう(6時間) ●当日準備を行う ●同学年他学級、幼稚園と連携する ●第1回交流会を行う ●後かたづけを行う</p>	<p>第4次交流会を振り返ろう(3時間) ○交流会を振り返る[2-(2)思いやり・親切、2-(3)信頼・友情] ●良かった点、改善点をふまえ、次の活動を考える ●次の活動の担当係、役割の分担を行う</p>
<p>めざす姿と支援 まわりのことを考え 適切に判断し 行動化できる</p>	<p>交流のねらいを話し合うことを通して、一人ひとりの様々な思いを認め合うとともに、幼稚園さんがどのような願いを持っているのか考えることができる。</p> <p>◇自分たちが幼稚園の時どのような思いで交流していたか思い出させ、園児が交流に対して持っている願いをとらえさせるとともに、4年生として自分たちがどのようなねらいをもって、園児と交流をしていかなければならないのか考えさせ、話し合わせる。</p>	<p>どのような交流をするのか、園児のことを考えながらお互いの思いを出し合い、話し合うことで、第1回目の交流にふさわしい活動を考えることができる。</p> <p>◇園児ができること、やりたいことを考えて活動計画を話し合わせる。また、初めての出会いとしてどのようなことをしなければならぬのかも考えさせる。</p>	<p>自分の役割を責任をもって行うとともに、まわりの状況を感じながら、友達と協力して楽しい交流を創り出すことができる。</p> <p>◇各係のリーダーを中心に、事前に計画していた通り、自分の役割を確実に果たさせるとともに、園児の思いを、その表情や行動から読み取らせる。</p>	<p>第1回交流会について、学級で話し合ったり、他学級や園児の感想を聞くことを通して、お互いの思いを交流し認め合いながら、活動を振り返ることができる。</p> <p>◇自分たちが設定したねらいが達成できたかどうか考えさせながら、第1回交流会を振り返らせる。また、自分だけの思いだけでなく、他学級や園児の思いも考えさせる。</p>
	<p>園児との交流を通して、4年生としてのねらいを、自伸会信条をもとに考えることができる。</p> <p>◇各自から出された考えを、学級目標や自伸会信条をもとにとらえ直させ、より明確で具体的なものになるように話し合わせる。</p>	<p>園児のことを考えて活動計画を策定し、自分がどのようなことをやらなければならないか考え、責任感をもって行動することができる。</p> <p>◇園児の立場になり、配慮しなければならぬことを考えさせ、各自役割を分担しながら活動させる。</p>	<p>園児の様子から、園児の思いを考え、リーダーを中心に活動計画を修正することができる。</p> <p>◇交流のねらいが達成できるように、幼稚園さんの思いを大切にしながら、活動をどのように修正していくのか考えさせる。</p>	<p>交流の良かった点や改善点を考え話し合い、次への交流に向けて、各自が責任感をもって、自分の役割を再認識したり、見直したりすることができる。</p> <p>◇次への交流に向けて、どのようなことに気をつけていかなければならないのか各係で話し合わせ、学級全体で確認し、一人ひとりの役割や責任を明確にさせる。</p>
	<p>学級で話し合い、決定したことを他学級や幼稚園に提示し、お互いの考えをまとめ、よりよいねらいを設定することができる。</p> <p>◇自分の考えを明確にさせながら、話し合い活動に主体的に参加させる。また、全体のリーダーを決め、他学級や幼稚園との連携にあたる。</p>	<p>リーダーを中心に、友達同士で指示を出し合い、協力し合いながら準備を行い、他学級や幼稚園と進行状況を確認し合いながら活動することができる。</p> <p>◇リーダーを中心に、学級会や帰りの会などでグループ毎に話し合いをもたせ、自分たちで活動を創り出させていく。他学級や幼稚園との連携は担当の係を通じて行わせる。</p>	<p>自分たちで考えた交流会計画書をもとに、園児と交流会を行い役割を分担しながら活動することができる。</p> <p>◇全体や各係のリーダーを中心に、事前の計画をもとに活動を進めさせるとともに、状況に応じて活動を修正させる。</p>	<p>各自が自主的に次への交流に向けての活動を計画し、学級や他学級、幼稚園に提案し、調節しながら見直しをもって行動することができる。</p> <p>◇リーダーを中心に、今後の活動について学級会などで提案させ、学級全体で話し合わせる。また、他学級、幼稚園と担当の係を通じて、密に連携をさせていく。</p>

(1) 学 年 中学校 第1学年 A組 41名

(2) 総合単元設定の理由

中学1年という学年は新しい学校生活を迎えて期待に胸をふくらませる生徒がほとんどであるが、その反面小学校とは違った雰囲気不安を抱く者も少なくない。その中でも生徒の一番の関心事はなんといっても「友人関係」である。本学園は、幼・小・中が同じ敷地内にあり、多くの生徒が幼稚園から中学校までの12年間をともに過ごす。そのため学年の構成員にはほとんど変化がなく、お互いに対する見方は固定的になりがちで友人に対する新たな認識を持ちにくい。加えて、中学校から新たに加わった数名の生徒にとっても、全く新しい環境の中で、友達ができるかどうかといった大きな不安もある。本単元は、一人一人の生徒に学級の一員としての所属意識や役割・責任の自覚を持たせ、充実した学級生活のために、積極的に取り組む意欲・態度を育てることねらいとして行ったものである。本年度は山の生活（宿泊合宿）が入学してすぐに行われるため、この取り組みを通じて、仲間とのさまざまなかかわりを持ち、自分自身や仲間の新しい発見ができ中学生生活がスタートしていく上での大きなつながりが生まれると考えられる。生徒一人一人に少しでも早くのびのびとした学校生活を送らせるためにも、温かい学級の雰囲気を作っていくことが大切である。

実践例1の「中学生になって」は、入学してすぐに行ったもので、生徒一人一人がお互いにあらためて自己紹介をし合うことにより、中学生生活に対する抱負や疑問についても話し合い、自分自身の存在感と学級集団への所属感が深まるよう本題材を設定した。

実践例2の「山の生活を振り返ろう」は、山の生活から戻りすぐに行ったものである。そして、寝食を共にし、さまざまな活動を通して仲間とかかわり合うことで、今まで知らなかった自分を振り返り、仲間の良さを発見したり、存在を感じとることができる。また、集団生活の中で一人一人が役割・責任を果たすことにより学級生活、学校生活を向上させていくということに気づかせることができると考え、本題材を設定した。

(3) 学習計画 全15時間

第1次 「中学生生活について知り、目標を持とう！」

- ・中学生になって……………1時間 実践例1
- ・集団生活を向上させるために(道徳)……………1時間
- ・小学校の生活との違いに気づく……………1時間
- ・中学生生活での目標を持つ・学級組織作り……………1時間
- ・礼儀とは(道徳)……………1時間

第2次 「山の生活を成功させよう！」

- ・オリエンテーション……………2時間

山の生活の目的を考える

実行委員の組織作りと資料学習

・班編成と係の決定・役割分担……………2時間

・各班，係ごとの準備……………4時間

第3次 「山の生活での活動を振り返ろう！」

・山の生活を振り返ろう(道徳)……………1時間

実践例2

・文集作り……………1時間

(4) 実践例1 「中学生になって ～みんなで語ろう～」(特別活動)

①日 時

平成16年4月14日(水)

②ねらい

入学直後の気持ちやこれからの目標をそれぞれが交流することにより，学級集団の所属感を持たせ，学級の一員としての役割と責任を自覚し，集団生活を向上させようとする意欲を育てる。

③生徒の実態

生徒たちは入学直後ということもあり，まだまだ緊張した面持ちで，これからの生活がどのように進んでいくのかといった不安を持っている生徒も多かった。そんな中でも生徒同士で少しずつ話をしたり，笑顔も見られるようになった。なかなか友達に話しかけることができず，静かに過ごす生徒もみられた。当然ではあるが，まだ学級全体として一人一人が自分の思っていることや希望を自由に表現できる雰囲気には至っていない。また，それは自分だけでなく，それぞれみんな同じように，期待と不安を持っていることに気づいていない。

④授業の概要

導入において，まず，担任が前日の入学式とその一日を振り返り，感想と自己紹介をした。担任にとっても入学式の一日は特別な思いがあり，これからこのクラスでみんなとがんばっていきたいと感想を述べた後，生徒に入学式の一日について問いかけると，これまで何度も入学式(小中合同)に参加し立ち会ってきたとはいえ，やはり自分たちが主役の中学校入学式となると，ほとんどの生徒が緊張したということであった。続いて，各グループ(班)で司会者を中心に，一人一人が自己紹介を行った。準備がない状況では，なかなか思ったことも話しにくいと考え，前もって自己紹介の内容(名前，趣味や特技，自分の性格や特徴，ニックネーム，中学生生活における抱負，学級の仲間に望むことなど)について考えておくことを伝えておいたこともあり，スムーズに自己紹介や班での話し合いが進んでいった。次に，各班に発表についての方法と内容を伝えた。一つは，班の仲間の自己紹介(名前・趣味・ニックネームは必ず言うこととした)，一つはクラスの仲間に望むこと(班でまとめたもの)とした。他の人に自分を紹介してもらっているときの生徒たちは，ちょっと恥ずかしそうではあるが，うれしそうに紹介を聞いていた。その後，クラスの仲間に望むこととして各班で出した意見をまとめたなかに，次のような発言があった。

《クラスの仲間に望むこと》

- これから1年間仲良くがんばりましょう。
- みんなでけんかのない平和なクラスを作りましょう。
- みんなでたくさんの思い出を作っていきます。
- 中学校ではどんな生活をするのか不安ですが、一緒にがんばっていきましょう。
- みんなで楽しい中学生を送りましょう。

これらの発言の中で特に、不安な気持ちがあるということ、仲間と仲良くがんばりたい、自分だけでなくクラスのほとんどの人が期待と不安の中にあるということを取り上げ確認するようにした。そして、最後に今日の活動を振り返り「今はどんな気持ちですか？」と問いかけた。

T：いろいろ、班や、クラスで話をしてきましたが、今、どんな気持ちですか。

S：他己紹介は、どういう風に紹介されるのかちょっとドキドキしました。

S：いろいろな人と話すことができて良かったです。

S：これから中学校で頑張ろうと思いました。

といった発言があった。グループの仲間を中心にいろいろなことを話したこと、クラスの自分以外の人たちの気持ちが自分と共感できたことで、中学生活に向け不安な気持ちを取り除かれ安心できたことを確認した。

⑤授業を振り返って

グループごとの自己紹介の後に行った他己紹介により、仲間を他のグループ・クラスに紹介するという活動が仲間の今まで知らなかったことや相手の特徴をとらえようと意識し、新たな発見に気づくことができたように思われる。また、クラスの仲間に望むことで出てきた発言はこれからのクラスの目標へとつながっていった。

(5) 実践例2「山の生活を振り返ろう」(道徳)

①日 時

平成16年5月6日(木)

②主 題

山の生活を振り返ることを通じて、集団の一員として役割と責任を果たすことが、集団生活を向上させていく上で必要であり、さらにそれには集団生活の中で、相手のよさを見だし、励まし合える人間関係が大切であることを確認する。また、今後も仲間と力を合わせて学校生活をより有意義で活気あるものにしていこうとする気持ちを持つ。4-(1)

③題 材

「山の生活を振り返ろう」(自作資料)

④生徒の実態

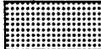
入学して半月がたち、生徒たちも中学校で知らないことも少しずつ経験する中で学校生活にも慣れ、不安が解消されつつあり、仲間と楽しく過ごす姿を多く目にするようになった。しかし、仲間との関係において、決まった友達と過ごすことが多く、グループ(班)活動などにおいても、一見スムーズに仕事、役割をこなしているようであるが、仲間との活動にはなっておらず、表面的な活動で終わっている。当然まわりの仲間には目が向かず、

個々の活動になってしまっている。グループ（班）活動，集団生活において自分自身がどう考え，どう行動していくか捉えられていない。仲間が存在についても，ただ仲良く，楽しく学校生活を送っていることだけで終わってしまっている。

⑤授業の概要

導入において，まず，山の生活から帰った翌日に書かせたアンケートの集計結果を発表した。アンケートの結果は次のようになった。

【山の生活への意欲】

A できた  B まあまあできた  C できなかった 

○ 山の生活の前に，しおりをしっかりと読むことができましたか。



○ しおりの日程表を常に確認し，自主的に行動しましたか。



【生活において】

○ 山の生活では時間を守り，10分前行動開始，5分前集合完了ができましたか。



○ 夜は，他の人に迷惑をかけず，消灯時間を守って静かに眠ることができましたか。



【各活動において】

○ オリエンテーリングは，班員全員が協力して取り組むことができましたか。



○ 野外炊飯であなたは，自分の役割を果たすことができましたか。



○ 登山であなたは，ペースを守って上ることができましたか。



○ 三瓶の自然を学ぶことができましたか。



自分たちがどのように山の生活へ取り組んだか，アンケートの集計結果を知ることによって，生徒たちはそのときの気持ちを思い出していた。

そして，次のように問いかけた。

T：山の生活で，一番楽しかった（うれしかった）ことは何ですか。

S：野外炊飯で，自分たちでがんばって火をおこしたり，カレーを作って食べたらとてもおいしかったことです。

S：カレーを作ったときが楽しかったです。みんなで助け合って，おいしいカレーが作れたことがうれしかったです。

S：三瓶山の登山が，とても不安だったけど，無事に全員で，山の頂上まで行って下山することができたことです。

S：夜サヒメルに行って星を見れたことです。星がすごくきれいでした。

S：オリエンテーリングは，班でいろいろなところへ行って，いろんな話ができ楽しか

ったです。



T：うん、ほんとたくさん楽しかったことあったね。みんなでいろいろなことやったね。では、逆に、山の生活で苦しかったこと（楽しくなかった、残念だった）ことは何ですか。

S：カレーを作るとき、雨が降っていたので大変だった。

S：野外炊飯で、スプーンがなくなったとき、一生懸命探したけど、結局見つからなくて残念だった。

S：野外炊飯でとても寒かったことです。でも、班で協力してとてもおいしいカレーができました。

S：オリエンテーリングで班のみんなで協力してたくさん記号を見つけることができたけど、最後まで全部できなかつたので残念でした。

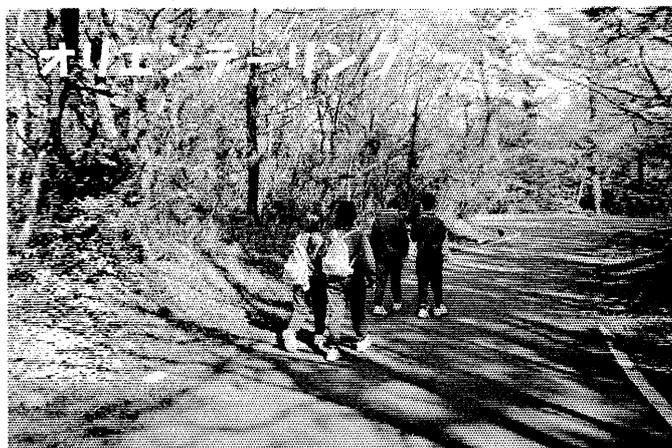
S：二日目の夕べの集いで、5分前集合ができなかつたことです。

S：登山の下りが険しくてつらかつたです。

S：野外炊飯で、女子にまかせっきりだつたのが残念でした。

などの発言が出された。楽しかつた（うれしかつた）こと、苦しかつた（楽しくなかつた、残念だつた）ことについて生徒から出た発言を聞いてみると、どちらの質問においても、自分自身のことに関する発言もあるが、多くの生徒が仲間とのかかわりの中での出来事を取り上げていた。そして、最後に生徒にこう問いかけた。

T：では、最後にみんなに聞きます。この山の生活で、あなたたちが学んだこと、得たことは何ですか。プリントに書いてください。





生徒たちが書いたことをまとめると、大きく3つに分けられた。

—— 集団・班にかかわって ——

- 班で協力して何かをやること、共同生活の中でどう行動するかなど。
- 全員でまとまって活動したり、班やグループや、チームの人たちをまとめる大切さがわかりました。
- みんなで協力することの大切さをあらためて、感じました。
- 仲間と協力して取り組むと楽しいし早くできること。
- 班のみんなで協力することを学び、それで、全員でやり遂げたときの達成感を学びました。
- みんなで協力できたのがとてもよかった。
- 班の人やグループの人が協力してくれて、このことを自分でもできるようになった。
- 集団生活の中の10分前行動。
- 行く前とかは自分からあいさつはしなかったけど帰ってきた後は、自分からあいさつができた。
- 班や、友達といつもより協力できたので良かったです。
- 他の人のことを考えて行動することです。でも、時々忘れてて、人に迷惑をかけたときがあったので頑張りたいです。
- 時間をみて行動することが、前に比べてできるようになった。
- 5分前行動と協力することです。
- 自然の中でみんなと協力していろいろなことをやり遂げる。
- 仲間と協力することと、自主的に行動することの大切さを学びました。
- 集団で行動するには、一人だけが遅れるとみんなが遅れることになるから、早め早めに行動をすることが必要だということ。

- 班やクラス，学年で協力したら，いろんなことができるということがわかった。
- 「10分前行動，5分前完了」がとても大切なことだということを学んだし，やれば，何でも，できるということがわかった，2泊3日でした。
- 他人に対して優しくすること。
- 班や学級・学年で，協力し合い助け合い，励まし合いながら生活することができた。

友達にかかわって

- 友達と協力したり，一緒にやることがほとんどだったので，友達の存在がとても大きいことを学んだ。
- やっぱりみんなといると楽しい。
- 友達と暮らしたことで，こんなに大変だとは思わなかったのに，やってみると，みんながいたから，三日間無事に終わったということに気づいた。仲間がいなくていけないということを学んだ。
- 友達と協力することの良さと，自然の偉大さを学びました。

自然にかかわって

- 三瓶山の雄大さを知って，集団行動時の一人一人の動きの大切さ。
- 山の頂上まで登って山の中でも，頂上でもいろんなところを見れて山登りは苦しかったけれど，登り切ってもものすごくスッキリして気持ちよかった。
- 星の誕生のでき方や三瓶山の自然のことなど。
- 三原にはないようなこと（星の観察，登山），できないようなことができたこと。
- 自然と触れ合う楽しさを特に登山で学べました。たくさんの生き物を大切にしていくべきと考えることができた。
- 自然の大切さと，それを理解することだと思いました。そして，班も何倍も協力できてすごく励みになった。

まとめとして，二泊三日で行った山の生活で，さまざまな活動に取り組む自分たちの姿が写った写真（スライド）を生徒に見せ授業を終えた。まとめで書いた一人一人の思いについて，その日の帰りのSHRで担任が読んで聞かせ，みんなで振り返った。

⑥授業を振り返って

仲間の必要性に気づかせるために，山の生活で楽しかったことと，苦しかったことを比較する中で，そこには自分だけでなく，必ず仲間の存在があったことを見つめさせた。生徒の感想にもあるように，仲間の必要性についてほとんどの生徒が気づいている。また，集団で取り組む中で一人一人が欠かせない存在であるとも感じているように思われる。

（6）成果と課題

不安と期待の入り交じった新しい中学校生活，そして，心と身体の著しい発達の時期である思春期を迎える中学一年生という多感な時期に，生徒たちが仲間や集団といかにかかわりどのような力をつけていくか，それには，その時々に適した取り組み，活動経験が大きな意味を持つといえる。本単元は，4月に入学したばかりの生徒たちが寝食を共にする

「山の生活」でのさまざまな活動を通して、教室といういつもの決まった環境でなく、自然の中で生徒たちは心を解放し、自分を含め仲間たちの、まだ知らぬすてきな部分を多く発見することができたと考えられる。また、さまざまな集団生活・活動を通して集団生活を楽しく活気あるものにしていくためには、自分が何を、どうすればいいかを考える場面も生まれた。行事が削減されていく中で、生徒たちを育てる上で、道徳、特別活動（宿泊行事「山の生活」など）の総合単元の取り組みとして行っていくことが大きな有効性があるように感じた。今回は短期的な取り組みとなったが、今回の課題として学んだことをこれからの生活へどう生かし、どう仲間にかかわっていくかを意識させ、取り組むべき内容をしっかりと考えさせるようにしていきたい。